

まちがみえる、  
ひとがつながる。



掛川市が運営する地域SNS「e-じゃん掛川」

地域SNS日本一

## 「e-じゃん掛川」の活用が、 「市民協働まちづくり」の新たなカタチをつくる

掛川に特化した小さな地域SNSだからできることがあるはず。そんな想いで「掛川市地域SNS『e-じゃん掛川』を活用した地域活性化事業」(平成21年9月～平成24年3月)を実施してきました。この事業から見えてきたまちづくりの可能性を総括します。

### ① 現場への取材活動と誠意ある情報発信が生み出すもの

- 地域情報の掘り起しと、新たな人材発掘、新たな地域の魅力発見につながる。
- 「人・商品・場所・活動・技術・想い」を伝える記事は共感を生み、「このまちは素敵だな」の気持ちを醸成する。
- 誠意ある情報発信は、誠意ある情報に価値を感じる人たちを引き寄せ、「e-じゃん掛川」を信頼性の高い「情報交流の場」とした。
- 掛川に特化した、自分と関係のある小さな範囲の情報共有は、実際の「出会い」と「つながり」、そして新たな「行動」や「活動」の種を生み出した。

#### 【つながっていく事例】

- ①「けつトラ市」コミュニティの開設
- ②「市民記者による「ペジタルピューティアドバイザー」の取材
- ③記事がネタ元になり、「けつトラ市」での試食サービスが地域新聞に取り上げられる
- ④「試食とレシピ提供が「けつトラ市」の人気コーナーとなる



### ② 安心できる「情報交流の場」が生み出すもの

- 26の地域生涯学習センターが公式コミュニティを開設。地区内コミュニティを補完し、地区間をつなぐツールとなった。
- 「e-じゃん掛川」上で様々な募集や問い合わせ(楽しいこと・まじめなこと)を行なうことで、市民の情報交流能力(リテラシー)の向上につながった。
- 善意ある情報発信・情報提供が、市民の「まちづくりへの参加」を後押しした。情報交流の場そのものが、「自発的な協働の場」であった。
- 市民と職員がしぜんな形でやりとりすることで、市民と行政の距離が縮まった。
- 市民が日々の暮らしを綴り、いつか会えるかもしれない人たちとネット上でつながり、実際に「会える機会」を通じて会えた。
- 市民主体の情報の蓄積は、それ自体がみんなで作る「市民メディア」のスタートであった。

#### 【会える仕掛けが重要】

- ⑤掛川城周辺をめぐる「お散歩ライブいいじゃん」
- ⑥市役所体験コーナー
- ⑦市民記者講座「まち本編集会議」



### ③ 市民記者とともに作る冊子制作のプロセスが生み出すもの

- 冊子制作のプロセスそのものが、「掛川を知ること」「掛川を好きになること」「出会いとつながりを生むこと」「まちづくりに関わること」だった。
- みんなで一つのものを作り上げる喜びは、「掛川のここがいいじゃんをもっと見つけたい」という「新たな目」を開くことにつながる。この「まちを見つめる目」こそ、市民協働の視点。
- 手に取れる成果物(冊子)は、「私も参加したい」という次への「出会い」「行動」を生み出し、市民記者数の増加につながった。

- ⑧「まち本!2010」「e-じゃん掛川」活用誌本
- ⑨「まち本!2011」掛川の人と会えるガイドブック
- ⑩「まち本!2012」市民が見つけた「掛川を旅してみよう」  
掛川のここがいいじゃんガイドブック

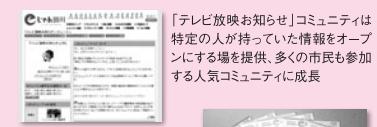


#### 実際の事業概要

- ①良質かつ安全で魅力的な情報を提供し、ユーザーを増やす
- ②アナログ媒体(印刷物)を使った「e-じゃん掛川」の魅力アピール
- ③ネット上のコミュニケーションをリアルな場面へつなぐ
- ④良質な情報を提供・発信・取材できる人材(市民記者)の育成
- ⑤SNSシステムを改善し、地域情報の「見える化」を実現

#### 編集局という存在

- 情報発信や情報交流のサポートを通じ、情報の側面から「市民と市民」「市民と行政」をつなぐ役割。
- ネット上のつながりを、リアルの場での新たな「出会い」や「展開」につなげる機会の提供。
- 市民活動やコミュニティビジネスの芽を「記事にする」ことで顕在化、後押ししたり人とつなげたりを実践。
- SNS上に蓄積された情報を様々な切り口で編集し、多様な媒体で提供。
- 地元メディアと信頼関係を構築し、両者にメリットのある連携の形を探り、新たな情報流通の可能性を模索。



## 数字から見えてくるもの

- 「いいじゃん掛川編集局」と「市民記者」が発信した

407記事

地域情報の発信総数 (いいじゃん掛川編集局161+市民記者246)

- 「e-じゃん掛川防災訓練アンケート」回答数

113の回答

自由回答欄には79もの書き込み

- 市民記者数

平成21年度 7名▶平成22年度 11名▶平成23年度 24名

#### ●新聞に取り上げられた数 65

- ①事業そのものが紹介:32
- ②編集局が仕掛けた取り組み:8
- ③地域SNSの可能性や事業に対する評価:11
- ④地元紙への執筆:9
- ⑤「e-じゃん掛川」の記事から新聞メディアへ:5

静岡新聞「社説」に取り上げられる  
(平成23年8月26日)

#### ●登録者数、アクティブユーザー数、コミュニティアクセス数の推移

	2009年8月 (委託前)	2010年9月	2011年9月	2011年12月
登録者数	1,905	2,337	2,751	3,017
アクティブユーザー数	457	602	515	814
トップページアクセス数	40,433	51,863	55,260	45,306
コミュニティアクセス数	49,138	58,250	62,308	55,934

土台はできた！ あとはみんなで使っていけばいいじゃん！

# 災害時における「e-じゃん掛川」活用の実際



災害時のソーシャルメディア活用が注目される中、「地域SNS日本一」を目指す「e-じゃん掛川」の実際の活用事例を紹介します。

## 「災害コミュニティ」の活用状況

- 平成18年の地域SNS運営開始から、安心安全なまちづくりの一環として防災訓練等での活用開始
- 平成23年12月の地域防災訓練では、「職員」「一般」合わせて322のコメント
- 災害時には市の公式コミュニティとしてトップページに表示（災害モードへの切替）
- 市民安全課からの公式情報を発信＋市民からの情報提供（混在型）



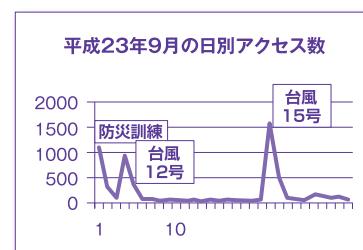
### 災害時における書き込み数の増加

#### ■ 委託前

平成21年8月「駿河湾沖地震」コメント13件

#### ■ 委託後

平成23年9月「台風15号」コメント37件（PC+携帯のアクセス数は1,619）



### 「台風15号」に寄せられた実際のコメント

- 塩町のステーションホテル横の街灯が、風で横に傾いています。
- 西郷県道の掛信城北支店前は倒木で通行止め。警察官が迂回指示中。
- 図書館前の街路樹が倒れて歩道をふさいでいます。注意して通行してください。

## その他の活用事例

- 地域SNSが連携した被災地に向けた文房具リレーを実施
- 「公衆電話どこにある?」コミュニティの開設と、市民によるマッピング情報の蓄積  
→その後、NTTは平成24年4月にも設置場所の公開に踏み切ると発表（平成23年12月20日の朝日新聞より）



▼平成23年4月9日 静岡新聞



▼平成23年6月30日 静岡新聞

## INFORMATION

### 災害時の情報発信「e-じゃん掛川」への評価

#### ■ SNS活用のメリット

- スピード感と柔軟性
- 行政が運営する安心感十機微に富んだ民間対応
- 行政が手を出しにくい「不確実な情報」の提供が可能
- 「共助」「推譲」の精神による情報提供→自発的な協働

#### ■ 全国における「e-じゃん掛川」の評価

平成23年10月に開催された（「地域SNS全国フォーラム in久留米」にて）

- 「災害時におけるSNS活用は掛川市がNo.1」と総務省の登壇者が発言
- 「掛川市民の『e-じゃん掛川』認知度は5割以上（他市は2割）はすごい」と東京大学田中秀幸教授
- 「防災訓練アンケートで113人の回答があるのは市民力の高さ」と国際大学GLOCOM主任研究員の庄司昌彦氏。

#### ■ 各種メディアでの紹介

- 災害に関する新聞記事総数は10



平成23年11月19日には日本経済新聞夕刊一面に、「防災情報地域SNSで～自治体の発信広がる～」として「e-じゃん掛川」の事例が紹介される

【発行・お問い合わせ】

いいじゃん掛川編集局  
NPO法人スローライフ掛川

〒436-0079 静岡県掛川市掛川1200-1

竹の丸管理事務所内

NPO法人スローライフ掛川連絡事務所

TEL.FAX 0537-22-2112

<http://kakegawa.info/>

<http://www.slowlife.info/>

※地域SNS『e-じゃん掛川』の活用が、「市民協働まちづくり」の新たなカタチを創る」の事例等をホームページ上で発信予定です。

■「e-じゃん掛川」の登録・アクセスはこちらから  
<http://e-jan.kakegawa-net.jp/>

パソコンだけでなく、  
携帯からもOK!



ご利用はすべて無料です



地域SNSだからできることが、きっとあるはず!!

